



## 小林ジュニアアスリートクラブ

ふるぞの じょうじ

# 古園 譲二 さん (73歳)

野尻地区出身。高校卒業後に自衛隊に入隊し、陸上競技を始める。現在、陸上クラブ「小林ジュニアアスリートクラブ」で指導者として子どもたちの健全な心身の育成に励む古園さんに話を聞いた。

陸上は全ての基本。楽しさを伝えたい

小林ジュニアアスリートクラブで子どもたちに陸上競技の指導をしている古園譲二さん（73歳）。

指導者として活動を始めて20年目となった今年、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」を受章した。

「受章は非常に光栄なこと。これもひとえに団の役員や保護者の協力のおかげです。感謝しかありません」と振り返る。

古園さんが陸上を始めたのは自衛隊に入隊し1年が経った頃。訓練を兼ねて走り始めて以来、約55年間走り続けている。

「指導者を始めたのは、小林の陸上への恩返し」。

自身の姿を見て陸上を始めた息子たちが、小林高校の駅伝部で日夜練習に励む光景に、そうした気持ちが高まったと話す。「陸上は全ての基本。小

学生のうちに体の動かし方をしっかり教えることで、中学、高校へつながら」と、陸上を続ける子ほちろん、違う競技に進む子にとっても必ず役に立つという信条で指導する。

現在、約90人いる団員は、短距離や長距離、跳躍など、さまざまな種目を体験し、自分自身がやりたい種目を探していく。

「一番大事なのは本人が楽しいか。楽しまないと続かない」との思いを強く持ち、子どもたちに陸上の楽しさを伝える。

「子どもたちの成長や笑顔を多く見られるのが幸せ」と笑顔の古園さん。

「もともと陸上と子どものが好きだから、元気なうちは続けられるだけ続けようかな」。

そう話して古園さんは子どもたちの元に笑顔で向かった。

「団員約90人の指導を支えているのは10人のコーチ陣。教え子や元保護者なども指導に来てくれるのでうれしい。最高のコーチ陣」と古園さん

これまで実業団や大学など、全国で活躍する選手を多く輩出してきた同クラブ。現在は毎週（火・木・土）に総合運動公園陸上競技場で活動中です



# 小林 小入

こばやしびと  
Vol.119